
研究活動報告

TICAD7 サイドイベント

2019年8月28日(水)から30日(金)にかけて、横浜で第7回アフリカ開発会議(TICAD7)が開催され、筆者はその公式サイドイベントの一つである「アフリカの人口高齢化を見据えて—高齢者ケアの「今」と、大陸を超えて共有すべきケアのあり方—」にモデレーターとして参加した。このサイドイベントは、長崎大学増田研准教授が研究代表者である文科科研プロジェクト「東アフリカにおける未来の人口高齢化を見据えた福祉とケア空間の学際的探究」、東アジア・ASEAN 経済研究センター(ERIA)、公益財団法人 日本国際交流センター(JCIE)、長崎大学の共催で、国立社会保障・人口問題研究所の後援も得て行われたものである。大河原昭夫 JCIE 理事長の開会挨拶、ナタリア・カネム国連人口基金(UNFPA) 事務局長の特別挨拶の後、基調講演としてアワ・マリ・コルセック セネガル国務大臣(元保健大臣)、プラフラ・ミシュラ ヘルプエイジ・インターナショナル アフリカ地域ディレクター、マリキ インドネシア国家開発企画庁人口計画・社会保障局ディレクター、増田研准教授から、アフリカにおける人口高齢化とその課題、アジア、特にインドネシアにおける状況、人類学からみたアフリカ人口高齢化の様相について報告がなされ、パネルディスカッションが行われた。最後は駒澤大佐 東アジア・ASEAN 経済研究センター総長参与により締めくくられた。

アフリカにおいては、高齢者人口の割合は未だ低いものの、総人口の爆発的な増加に伴い、高齢者人口の増加数は大きく、今後20年間に2倍、30年間に3倍に増加すると推計されている。それに応じて医療・介護ケアの需要も爆発的に増加すると見込まれているが、「介護サービス」という概念は未だ十分に共有されておらず、高齢者のケアは家族がするもの、という通念があり、またその通念が、急速に変化する家族形態・世帯構成、また若者の都市部への集中により成り立たなくなっている、というアジア同様の状況が生じ始めている。さらにアフリカ特有の状況もある。例えば、1990年代からアフリカで猛威を振ったエイズにより多くの親世代が死亡し、残された子供をその祖母・祖父が養育するような、skip family も多い。年寄が死ぬのは図書館が燃えてなくなるのと同じである、ということわざが示すように、高齢者は知識を持つ尊敬すべき対象である、とされる一方、黒魔術を使ったと疑われ殺されてしまう高齢者もいる。限られた資源の中で、高齢者と子供の生存競争が生じることもあり、また子を持たなかった高齢者は社会保障が未整備の中、貧困にさらされる。多くの課題自体がまだあまり認識されていないものの、人口高齢化はアフリカにおいても着実に一つのテーマとして取り上げられていくことになるだろう。

今回のサイドイベントは、アジアからアフリカに繋げる、ということから「アジア健康構想(AHWIN)」の一環として行われ、その内容は、アジア健康構想の web サイト <https://www.ahwin.org/posts/dialogue-aging-in-africa-ticad7> に掲載されている。(林 玲子 記)

2019年度日本建築学会大会(北陸)

日本建築学会の2019年度の全国大会は、金沢工業大学扇が丘キャンパス(石川県野々市市)を会場として、2019年9月3日(火)~9月6日(金)の4日間に渡って開催された。「次の時代は」という大会メインテーマのもと、建築に関わる多様な部門に分かれて、学術講演や研究協議会、パネルディ